

アジア拠点化・物流分野 総合特別区域
評価・調査検討会における評価結果

令和4年度

ながさき海洋・環境産業拠点特区

[指定：平成25年2月、認定：平成25年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(1.7+2.3)/2=2$

2.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	県内造船所による高付加価値船・省エネ船の建造量	64%	3
2	県内造船所による環境関連機器の取扱件数	32%	1
3	県内造船所が建造に携わったあるいは県内に設置された海洋再生可能エネルギー利用発電設備の総設備容量(累計)	29%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 0 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 2) / 3 = 1.7$

1.7

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

2.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(2.3+2+3.8)/3=2.7$

2.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.8

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

2.5

・評価指標(1)から(3)のいずれも、初年度や前年度と比較しても、同じか更に減少している点はかなり厳しいと評価せざるを得ない。より具体的に成果につなげる取組として何をしていくのかよく検討する必要がある。
また事業方針の転換に伴い、必要であれば、評価指標の再検討も考えてもいいかもしれない。

・五島市沖浮体式洋上風力発電ウインドファームが運転開始に向けて着実に進んでいることは朗報だが、風力発電一般については近年では中国が先んじている模様であるため、スピード感のある発展を期待する。

・高付加価値・省エネ船に強い造船技術、生産効率の高さなどの本特区がもつ非常に高い優位性が、評価指標の成果に結びついていない理由として、国内造船業の事業再編や、国際的な価格競争といった厳しい環境にあることは理解できるが、それが長年同じ課題として続いてしまっていることが懸念される。
国際的な周知など、ソフト面での新しい打開策の実施や検討などがどの程度なされているのかも知りたい。
生産効率向上や生産現場の高度化、人的資源蓄積など数値には表れない取組が充実して行われていることは、地域独自の取組や、現地調査からも伺うことができ、高く評価できる点である。

・財政支援など、地元の努力はわかる。外的要因も大きいだろうが、やはりカーボンニュートラルの視点からも我が国の技術はもっと競争力があると思われるので、もう少し戦略を変えて行ってみてはいかがだろうか。
なお、洋上風力はちょっとトラブルが大きいようなので、注意が必要である。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

2.5

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(2+2.7+2.5 \times 2) \div 4 = 2.4$

2.4

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。